

## 安乎の海坊主（安乎町）

むかし、安乎〈あいが〉（洲本市安乎町〈あいがちょう〉）の海辺に、世にも不思議な動物が時々あらわれて人々を驚かせた。

「海坊主、わし、昨日の夕方見たでえ。」

「海坊主いうて、どんなんや。」

「頭は猿みたいで、ネズミ色しとってなあ。」

「ふうん、ふうん。」

「眼は、まるうてなあ、口がとがとって…」

「…」

「喉〈のど〉の下は茶色かったでえ。」

「へーえ。」

海坊主の話は、安乎の村だけでなく、近くの村にも、うわさが広がっていった。

「あの海坊主、海の中へもぐって魚を取ってって、くわえてかみもって…」

「そやそや、浮きあがってきて食べよったなあ。」

「そやけど、海坊主が食べるんは、海の底におるヒラメやカレしか食べへんなあ。」

「泳いどる魚食べよんの見たことないなあ。」

「海面に少し肩をつき出して、手みたいなひれが見えたでえ。」

「ほんまや、頭は、けだものみたいで、尾ひれは海老みたいやったなあ。」

「それでも、全身みた者ないんちがうか。」

「不思議〈ふしぎ〉な生きものやなあ。」

こうして、見物人が方々から集まってきて、ワイワイ騒いでいた。

その海坊主は、何ものともわからないままに、いっしか、どこかへ行ってしまった。

